



穂別の化石紹介②

モササウルス・ホベツエンス

「穂別」の名前がつけられたモササウルス

発見の経緯

1982 年（穂別博物館開館の年）の 11 月 20 日に鈴木茂氏（穂別博物館学芸員・当時）によって発見された。化石を含む大きな石の塊（ノジュール）を発見したが、1 人で運べる大きさではなかったため、穂別町化石研究会（当時）に協力を依頼し、翌日、荒木新太郎氏と石崎正行氏（故人）とともに 2 つのブロックを回収してきた。

標本の意義

当時、国内ではモササウルス類の化石はほとんど発見されておらず、前肢や肢骨が連結状態で発見されたのは国内初で、しかも種まで決められたのも国内初である。国内産モササウルス類標本のうち、現在、種まで特定できている 3 標本のうちの 1 つである。

基本情報

分類：脊椎動物門 爬虫綱 ^{ゆうりんもく}有鱗目 モササウルス科

Mosasaurus hobetsuensis Suzuki, 1985

（意味：「穂別のモササウルス」）

登録番号：HMG-0012（穂別博物館収蔵資料）

年代：中生代白亜紀後期（約 7000 万年前）

産出部位：歯 1、背骨（^{どうつい}胴椎）10、^{ぜんし}肋骨 23、右前肢（^{じょうわんこつ}上腕骨～^{しこつ}指骨の一部）、^{うこうこつ}右烏口骨、^{けんこうこつ}右肩甲骨ほか

発見者・研究者：鈴木茂（当館学芸員・当時）

研究

鈴木（1985）* は、この標本は *Mosasaurus* 属に含まれるが、以下の特徴を持つことから新種であるとした。

- ・歯の外形は二等辺三角形に近い形をしている。
- ・歯表面の両側に、弱い平坦面が見られる。
- ・^{じょうわんこつ}上腕骨、^{しやこつ}橈骨、^{けんこうこつ}尺骨の形態が独特である。

モササウルス類とは

中生代白亜紀後期に栄えた海生爬虫類の 1 グループ。現在のヘビやトカゲの仲間（有鱗目）である。化石は北アメリカやヨーロッパなどを中心に世界各地で発見されており、日本国内からは 40 標本ほどが報告されている。

（学芸員 桜井）

* 鈴木茂, 1985, 北海道穂別町の上部白亜系函淵層群産海棲トカゲ *Mosasaurus* の一新種, 地団研専報, 30, 45-66.



巨大アンモナイトを移動しました

白亜紀の海洋をイメージした展示にしました



上からホッピー♪
捕食者の奴め!

館内に散在していた巨大なアンモナイトを男性職員4名でホールのクビナガリュウ・ホッピのまわりに移動させました。人力で持ち上げることの出来ない標本は長い木の棒を使って、テコの原理で移動させたり、多数の鉄パイプを標本台の下において移動させました。

クビナガリュウは、すくなくとも丸のみ出来るぐらいの大きさのアンモナイトを捕食していたことが研究によって明らかにされています。この展示は捕食者クビナガリュウと被食者アンモナイトの関係をイメージしたものです。(ただし、クビナガリュウが、これほど巨大なアンモナイトを捕食していた証拠は見つかっていません。)

(普及員 西村)

【公共交通機関による来館案内】 (バス停「穂別中央」→博物館は徒歩約10分)

往路 (札幌・苫小牧方面▶博物館)

- ・新千歳空港 10:40 ①▶穂別中央 12:03
- ・札幌駅 8:10 ②▶むかわ四季の館 9:30 -(乗換)- むかわ四季の館 9:41 ④▶穂別中央 10:45
- ・苫小牧駅 8:03 ③▶鵲川駅 8:32 -(乗換)- 鵲川駅前 9:39 ④▶穂別中央 10:45

帰路 (博物館▶札幌・苫小牧方面)

- ・穂別中央 16:17 ①▶新千歳空港 17:40
- ・穂別中央 15:40 ④▶鵲川駅前 16:45 -(乗換)- 鵲川駅 17:25 ③▶苫小牧駅 17:54

①道南バス 新千歳空港直行便 (1,830円) 前日の16時までに予約 (0145-45-2284)

②道南バス 高速ベガサス号 (2,340円) 事前予約 (0146-42-1231)

③JR 日高本線 (620円)

④道南バス 穂別鵲川線 (200円)

※各料金は大人1人分

【休館日】

2012年3月

5(月) 12(月) 19(月)
21(水) 26(月)

2012年4月

2(月) 9(月) 16(月)
23(月)